

# アジア・アフリカ ラテンアメリカ

今月の読み物

- 2、3面 タイ訪問団の報告
- 4、5面 定期大会での発言とテーマ
- 6、7面 列島AALA
- 8面 わたしとAALA

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

2019年11月1日 No.712

タイ  
訪問団

## 東アジアの平和と 人権擁護をめざす運動で交流



タイ訪問団。チャリダさん（前列中央）を囲んで

### 第5次「国際署名」1万2000筆を持って

タイ訪問団（団長：松井常任理事ら20人）は2019年9月29日から10月3日まで、タイを訪問しました。今回の訪問の目的は、①ASEAN首脳会議と東アジアサミット（EAS）の議長国であるタイ政府に東アジアを平和共同体にすることを求める国際署名を届けること、②タイの知識人、市民運動家の方と交流、懇談することと③タイの文化を知ることの3つでした。また、日本AALA機関紙にタイ関係の連載記事を寄稿していただいたジャーナリスト宇崎真さんとも懇談、交流を行いました。

各都道府県AALAの皆さんが集めた第5次「国際署名」個人署名12,000筆余、団体署名260筆を携えて成田空港、関西空港からタイに向けて出発しました。

「国際署名」の提出に関しては、田中代表理事が

ツアー訪問団の滞在中に提出できるようにタイ政府・外務省と折衝して努力してきました。しかし、新政権が発足し、新年度予算に関する審議と策定のため全省庁のすべての幹部が連日の会議があり、署名の受け取りについては、今回の訪問中にはできない。ASEAN局長が追って知らせるという連絡が来ました。持参した「国際署名」については宇崎真さんが一時預かってくれて、後日、タイ政府に提出をめざすことになりました。

今回の訪問の成果の一つは、市民運動家のチャリダ・タジャロエンスクさん、元大学教授で評論家のゴトム・アラヤさんとの交流と懇談でテーマはタイにおける人権、女性の地位向上、政治・経済の現状などで、有意義なものでした。

（詳細は2～3ページ参照）

台風19号の被害で亡くなられた方に謹んでお悔やみ申し上げます。被災された方々にお見舞い申し上げます。

## 日本 AALA タイ訪問団の報告

## バンコクで市民平和団体と交流

タイ訪問団は10月30日の午後、バンコク市内のホテルでタイを代表する平和研究者や草の根の人権活動家お二人とお会いして、地域の平和をめざす運動のお話をうかがい、交流をしました。おひとりには「タイ情報ネットワーク・センター基金」の会長で元大学教授のゴトム・アラヤさん、もう1人は、草の根の人権・平和運動家のチャリダ・タジャロエンスクさんです。お二人との交流会は、時間を分けて別々に行われました。

はじめに、松井幸博団長があいさつし、「私たちは、日本で核兵器のない公正な世界の実現とアジア諸国民の平和と共存をめざして地域で運動をしている団体です」と日本 AALA の紹介と訪問の目的を話し、交流会が実現したことに感謝しました。

## ゴトム・アラヤさんのお話

ゴトムさんはタイの南部の状況について、10数年前からどういう平和活動をしているかを次のように話しました。マレーシアとの国境にある4つの地域はマレー系の人たちが住んでいて、85%がイスラム教徒の人たちであり、独立したいという希望を持っている。タイの中央政府と争っていて、15年間の武力紛争で5000人くらいの死者がでていて、現在もまだ事件は起きているが、犠牲者は少なくなっている。政府は対立を防ぐために3000億バーツの予算を組み、民間組織や教育機関が共存できる環境をつくる努力をしている。また、政府は武装勢力たちと平和の対話を行おうとしているが進捗してない。



ゴトム・アラヤさん

タイは1932年に絶対王政の国から立憲民主主義の国になったが、クーデターが何回も繰り返されてきた歴史がある。第2次大戦後も米英仏の了承で敗戦国扱いを免れ、国連に加盟。米国との関係強化で朝鮮戦争にも派兵、フィリピン、マレーシアと手を組んで反共法をつくり、1953年東南アジア条約機構(SEATO)に参加、1967年、5カ国でASEANを設立した。1971年ベトナム戦争にも派兵したが米国との軍事力に依拠していてもだめだと、1976年に米軍基地を撤去した。ASEANは10カ国になって、経済問題を中心に共同体になり、核兵器のない地域である。ASEANのなかには海洋の資源の取り合いなど問題もあるが、武力の威嚇・行使を放棄、紛争の平和的解決は話し合いでという立場で、国と国の信頼関係をつくるのが大事だと思っている。

## チャリダさんのお話

チャリダさんは、タイ南部の対立の問題で、人権活動家の立場から活動の様子を話されました。教育機関としてどのような調査をしているのか、現地の人の気持ちを大切にしている。毎日事件があった、不安な生活をしている、そう



チャリダ・タジャロエンスクさん

いう人の気持ちをわかってほしいと思う。爆破、暴力事件があるので、軍や警察に捕まる人がいる。人権の観点から、その人たちが虐待されていないか、捜査が終わったら帰すようにさせる取り組みをしている。現地の人たちからは信頼されている。軍は武器をもっているが、私たちは口と志だけで運動している。東チモール紛争の時も現地に行って活動した。タイの軍隊が1500人も派遣されていた。情報を伝えることが自分たちの仕事だと思い活動した。タイ軍基地の近くの病院でチモール人のけが人を治療する仕事もやっていた。市民と軍の架け橋として運動している。国連の人権擁護の決まりがあることを教えて人権侵害されている人たちから信頼されてきた。人々に力をつけさせるような活動もしてきた。武力紛争を防ぐ組織が国連にあり、タイには東南アジアの事務所を置いている。

チャリダさんは、タイで開催された「ASEAN 人民フォーラム」の運営責任者として活躍されてきたので、その話やミャンマーでの少数民族ロヒンギャーの人権問題にも取り組んでおられ、参加者からの女性の人権問題や子どもの教育などの質問にも応えてくれました。

ゴトムさんとチャアリダさんとの交流会でのお二人の話は、タイの抱えている課題や複雑な事情、市民運動の状況を知ることができる内容で大変有意義なものでした。

今回のタイ訪問は現地に在住している宇崎真さんに大変お世話になりました。宇崎さんとの懇親会でのお話は、日本では報道されていない興味深いタイの事情が聞けてよかった。昨年シンガポール訪問に続き、富山県 AALA の松浦さんが作成したタイについての詳しい資料をもとにして、交流会前にレクチャーしてくれたことは、たいへん役に立ちありがたかったです。

訪問団は10月1日、バンコク市内の王宮、仏教寺院など見学しました。10月2日、カンチャナブリで、泰緬鉄道建設の犠牲者、連合軍共同墓地を訪れました。また、4名は、古都アユタヤ寺院巡り、像乗り体験のツアーに参加しました。

## JEATH 博物館 クウェー河鉄橋を見学 泰緬鉄道に体験乗車

10月2日、代表団のうち16名は、カンチャナブリにある「JEATH 博物館」の見学と第2次世界大戦中の1942年、日本軍がインパール作戦（インド侵攻）の準備として、タイからビルマ（現ミャンマー）まで、軍需物資を輸送するため、建設した泰緬鉄道（約415km、「死の鉄道」と言われている）のクウェー河鉄橋を見学し、鉄道に体験乗車した。この鉄道の建設には、連合軍捕虜1万6000人、東南アジア占領地域からの労務者使役40万人を使って、15カ月あまり驚くべき早さで完成、開通させた。建設に使われた人たちの多くは、熱帯病の巣窟地帯での過酷な労働で様々な熱帯



の疫病にかかり、死亡しました。（死者：捕虜1万2000人、アジア人3～7万人）博物館には、当時の過酷な現場の写真などが展示荒れていて、館内の表示に「許そう、しかし忘れまい」とあったのが印象的でした。

ASEAN  
市民フォーラム

## ナショナリズムを超えた共存の知恵を

田中代表理事が参加

ASEAN 諸国の NGO が集まって ASEAN 首脳会議への提言を協議する ASEAN 市民組織会議 / 人民フォーラム (ACSC/APF) 2019 が、9月11～13日バンコク郊外のタマサート大学で開かれ、オブザーバーとして招待をうけた日本 AALA の田中靖宏代表理事が、11日の「平和と安全保障」の分科会で「日本のインド太平洋戦略と ASEAN」と題して発言し、参加者と意見交換しました。

この会議は「人民に依拠する」ことを憲章にかかげた ASEAN 諸国の民間組織が、首脳会議と並行して議長国で毎年開いているもので、日本 AALA は2017年のフィリピンでの会議から「平和と安全保障」の分科会のパネリストとして毎年招かれています。今年のテーマは「東南アジアにおける平和と安全保障の課題に人民としてどうかかわるか」でした。ベトナム「戦略研究所」のグ

エン・ゴック研究員やフィリピン大学のタデム教授、ミャンマーや東チモールでの平和活動家たちがそれぞれの立場から呼びかけを行いました。

このなかで目立ったのは、南シナ海などへの中国の軍事的な進出や一方的な「経済協力」の在り方への強い警戒感でした。それにたいして民間の市民組織としてどう対処するか。どちらからであれ他国の主権を無視した覇権主義的な行動には正面から批判をする必要とともに、対立をエスカレートさせるナショナリズムや排外主義を警戒しなければならないとの意見がだされました。

田中代表理事は、安倍政権が日米同盟を強化して、太平洋からインド洋までの軍事的役割を拡大しようとしていると批判。ASEAN が構想する自主的な平和構想と憲法9条を基礎にした日本の平和外交の方向が一致すると展望を語りました。

# 定期大会での発言者とテーマ

## 河内 研一（埼玉）

慰安婦問題の取り組みは、94年に先陣をきって金学順さんを招いた浦和での講演会を含め毎年続けている。ろうそく革命と連帯した埼玉 AALA の活動は、市民社会の運動に貢献している。2019年の韓国ソウル訪問では活動家と交流した。

## 阿部 宏忠（東京）

国際署名は2カ月に1回街頭宣伝を行なっている。北朝鮮、日韓問題を宣伝している。AALA カフェも行なって、会員が増えている。テレビで韓国を罵っている。今年の支部総会では日韓問題を取り上げる。

## 松浦 晴芳（富山）

日韓問題を危惧している。文政権バッシングが酷い。今連帯することが大切だ。国際署名が大切なので、各県の取り組みを積極的に。会員の若い人の勧誘では、ネットの活用や若い人の役員登用が大切である。

## 稲垣 豊子（岐阜）

本大会は女性が多いので力強く思う。韓国訪問や映画を見ながら学習している。韓国では歴史認識が若い人に広く行き渡っていて、ろうそく革命につながっていると思う。韓国訪問は7人で行って、会員を増やした。

## 萩原 修（宮城）

多国籍企業やカシミール問題を詳しく書いて欲しい。トランプ登場で世界時計の残り時間が短縮された。韓国問題も詳しく知りたい。地域の領事館などでの交流ができないか等の意見が出された。オスパールの解散の提案は賛成。

## 近藤 輝雄（茨城）

大会で県役員体制を一新した。活動を広めるため平和委員会、新婦人

などの会合に積極的に参加し、国際友好団体とも一緒に交流会を行なっている。機関紙、学習会、講演会活動を重視し地道に取り組むたい。

## 金森 洋二（福井）

一般の人にも呼びかけて学習会をしている。今年は朝鮮半島問題を取り上げた。韓国訪問も行なった。在住している外国の人とも交流している。会員との結びつきを深めるため交流会を年2回やっている。機関紙の記事は会員にできるだけ書いてもらっている。

## 新藤 通弘（常任理事）

議案に非同盟中立の中立が入っていない。またベネズエラ問題では「自主的立場で国作り」の表現を削除してほしい。科学的分析を守って議案を作成してもらいたい。このような見解でラテンアメリカの人たちと接すると孤立してしまう。

## 大村 哲（常任理事）

決議案の一部に反対。国連のIPCCで温室効果ガスが原因で温暖化になるという見解は間違い。さまざまな自然現象によって気温が変化して温暖化になっている。過去に気温が4℃上昇している時もあった。2℃未満に抑えるというのは科学的ではない。

## 山本 翠（愛媛）

朝鮮問題で教えてほしい 国交がない北朝鮮への敵視が酷い。読者を増やすのが大事。AALA ニュースを紙で機関紙といっしょに1部送付してほしい。沖縄の自衛隊基地問題が議案に書いてないので加えてほしい。

## 上田 敦子（千葉）

読者が会員と同数ぐらいになっている。機関紙を重視している。国際署名が去年より少ない。去年は千葉

土建ががんばってくれた。朝鮮半島の情勢が滞っているのが原因か? 「9条の会」と共催で学習会を開いた。在日の講師の方は問題の捉え方が違うので貴重だ。

## 大西 広（常任理事）

日本の世論はコントロールされやすい。日韓では1965年の日韓請求権協定は間違っていると運動してきた。日韓政府は結んだが、それが誤っていることが問われている。韓国はろうそく革命で平和で対等な協定を結ぶことを目指す国に変わった。

## 阿部 宏忠（東京）

香港問題で AALA の態度表明が必要。ベネズエラ問題を国内問題にしているが、人権侵害が発生している。目を閉じてはいけない。政府にも人民に対する責任を取るよう訴えていく必要がある。

## 鈴木 頌（北海道）

平和的な話し合いが大切。ベネズエラの自主的な国づくりの表現での意見の不一致について議論を続け、一致できることから書いていけばいい。不破さんが AALA50周年での講演でも言っている。推進力はどこにあるかの視点、功罪を明らかにしていくことが大切。

## 高林 敏之（常任理事）

アフリカ問題が出ていない。モリシャスの島に基地があるが国際法違反。アルジェリアとスーダンが民主化運動で政府が変わった。エチオピアはアビ首相の登場でアフリカの紛争が解決してきている。北朝鮮は160カ国が国家承認している。日本には国連軍後方司令部がある。北朝鮮アレルギーから脱却する必要がある。インドはカシミールを弾圧している。ヒンズー至上主義だ。議案で取り上げてほしい。

# 慰安婦問題は終わっていない

吉川春子 日本 AALA 理事



「慰安婦」問題は2015年の日韓合意で終わったように報道され、そう受け止めている方もいますが終わっていません。まず、韓国の被害者と国民は受け入れていないからです。

8月20日、参議院協会（元参議院議員で組織する財団法人）を韓国の元国会議員（一院制）「憲政会」のメンバー24名が来訪、日韓関係改善の糸口を探りました。私は「慰安婦」問題に就いて発言しました。ある自民党元議員は吉川さんよく慰安婦問題を話したね。日本にもいろんな考えがあることを相手に知ってもらってよかったと感想を述べました。韓国の元国会議員からは発言後握手を求められました。

また8月6日に私は韓国のテレビ局SBSのインタビューを2時間受け8月24日の夜放映されました。韓国の70分の教養番組で今回は「慰安婦像につばを吐いたのは誰か」という内容です。編集内容が変わったとかで私の出番は少しだけで、安倍総理や中山大臣（当時）の国会答弁が多かったです。韓国の30代の女性が「吉川さんのコメントは日本にも安倍総理に反対する人がいるという点でアピールになった」と日本語で感想を寄せてくれたことは嬉しかったです。番組では東京都文京区役所で開かれた元川越民商会長・村瀬守康氏の写真展で、慰安婦の写真4枚を説明する私をも報道しました。この写真展には文京区教育委員会は「中立性云々」を理由として後援を拒否しました。写真展は3日間で、参加者は1500人で大成功しました。来年は教育委員会の後援を得て、小、中、高と大学にも宣伝して若い人に見ていただき

いです。韓国の人々と心通わす活動を今後も続けます。

ところで、「慰安婦」問題は戦争責任及び歴史認識の側面と、もう一つ女性の人権の側面があります。「慰安婦」と言えば韓国の女性というイメージが強いのですが、実際はかなり多くの「慰安婦」は日本人でした。韓国の被害者に金を払った、謝罪をしたとしても、日本人「慰安婦」には謝罪も如何なる名目のお金も払われていません。名乗り出られず「慰安婦」として苦しい人生を送った日本女性が少なからずいる、という事を知れば「慰安婦」問題は終わったとは到底言えないでしょう。

大勢いた日本人「慰安婦」はなぜ名乗り出ないのでしょうか。彼女たちは戦前日本中に数多くあった遊郭から送られて行きました。そもそも売春婦であったのです。韓国の少女像のような性的に無垢で、強制連行された少女というイメージとは違う女性たちです。

残念ながら売春婦は「慰安婦」にされても仕方がない、という思想が女性を含む日本社会に存在する。これが日本人「慰安婦」が名乗り出られない背景です。これを放置してはならないと思います

「慰安婦」問題は女性への暴力撤廃、女性の人権問題です。ハリウッドで始まった#MeTooを日本でも広げる、そのために今日性暴力で苦しむ若い女性たちとも連帯して、女性の人権を守る運動を発展させましょう。

## 小林 立雄（宮城）

多数者革命で見ていく論点が大切。韓国問題で1年間かけて植民地時代のことを学習してきた。文政権をどう見るかの認識を深めるのも大事。9条を守るのと核兵器廃絶の問題は裏表の関係がある。

## 松井 幸博（常任理事）

米軍横田基地では日米地位協定を無視し、オスプレイが銃を住民に向けて飛行訓練を行なっている。パラシュート訓練も激しく、部品が落ち

るなど事故が頻発している。無人偵察機も配備されている。さらに危険な戦争指令基地に変貌している。

## 上村 得代（大阪）

世界を知ること。AALAカフェを毎月1回開催している。「AALA60周年」「日本が変えられる」「アメリカはヒトラーを必要としたか」などの本を学習している。10人ぐらいで行なっている。1人では気がつかないことが分かる。中国、韓国、ジェンダー、英語で世界を知る、タイ、ニカラグアの学習に、歌声もやっ

ている。

## 久保田 三徳（埼玉）

組織拡大で発言します。埼玉はサツマイモの形をしている。移動が大変だ。地域で会員向けの連帯の集いを行なっている。2年前は秩父市で初めて行い、去年は加須市で行った。吉川春子さんを講師に170人が参加した。今年は春日部で開く。会費未納者も解決したい。

## 宮城 恭子（奈良）

国際署名の取り組み、AALAの



へ思い、AALA への注文を発言する。未納者の問題で会員に感想を聞いたら、活動や機関紙が面白くないと回答があった。そのため親しみやすいようにナララと呼び、シンボルマークも作っている。国際署名は各種集会で訴え 563 筆集めた。ビジュアルなセンスがある若者向けに機関紙を改善してほしい。

### 正保 宏文 (岡山)

会員拡大では一進一退を繰り返している。また 100 人を目指したい。毎月機関紙を発行している。「憲法からジェンダーを考える」と題し、吉川春子さんを迎え講演会を行った。8 月にバーベキュー合宿をおこなった。9 月下旬に韓国ツアーを予定している。

### 利元 克巳 (広島)

日中韓フォーラムが去年は広島で開催された。若い人がたくさん

参加した。チェさんが朝鮮戦争の講演を行なった。被爆地広島では「核兵器禁止条約」はどうなっているのか。核兵器禁止条約に賛同する市長に変える運動をした。戦争展も行なった。

### 辻崎 忠由 (京都)

20 名が退会をしている。高齢化、経済的問題、病気、死亡などが原因。AALA の認識がどれくらい浸透しているか。京都市内で学習会を行なっているが参加者が少ない。講演会も年 2 回ぐらいで、停滞している。

### 片岡 満 (北海道)

北海道 AALA は 55 周年を迎えた。記念事業で萩原伸次郎さんのトランプ政権の学習会を行う。毎月、札幌駅で宣伝している。会員拡大では 2 年間停滞している。国際問題はテーマが大きすぎて、なかなか加入に繋がらない。入門

講座など検討してほしい。

### 林 正人 (兵庫)

テレビは韓国の攻撃をしているが、連続講座を開き韓国・ASEAN の学習を行なって正しい認識を得るようにしている。若い人にチラシを作ってもらっている。韓国問題シンポジウムが自民・維新から圧力を受けて神戸市は中止に追い込まれた。独自に表現の自由、日韓問題での集会を行っている。非核神戸方式を世界に広めたい。

### 新谷 清美 (愛知)

学習活動に取り組んでいる。7 月の高校生サマーセミナーでは、「北東アジア平和と統一」の共同体学習の講座を開いている。8 月には「愛知平和のための戦争展」、母親大会分科会では在日朝鮮人の話、日韓問題の講座を受け持った。



## 北海道

### 創立 55 周年記念講演会

北海道 AALA は、10 月 5 日の午後、札幌市内で創立 55 周年記念講演会を開催し、参加者は目標の 100 人を超えました。日本 AALA 常任理事の萩原伸次郎さん（横浜国大名誉教授）が、「トランプ政権の『アメリカ第一主義』とは何であったのか～2020 年アメリカ大統領選挙の行方～」と題して、約 80 分間にわたって熱く語りました。

萩原さんは、「何であったのか」

と演題を過去形にした理由について、「早くトランプ氏に退陣してもらいたいから」と明かしたうえで、トランプ氏をめぐるさまざまな疑惑や、民主党がいよいよ弾劾のため

に動き出した意味、民主・共和両党の主な大統領候補の動向など、アメリカ政界の最新の動きを解説しました。

経済面では、35% だった法人税を 21% に引き下げ、設備投資の費用化を認めるなど、日本と同じく財界奉仕の施策を進めているのが特徴です。また、温暖化対策に背を向けて、化石燃料産業の復活をはかる中で、バイオマス燃料の材料としてのトウモロコシが余



剰となり、それを安倍政権に押し付けたことなども詳しく解明しました。

注目の大統領選挙では、トランプ再選の条件が、①景気・雇用が好調、②外交的に何らかの成果を挙げる、の二つが必要であり、対朝鮮や中国などの対外政策動向からは今後も目が離せないことが分かりました。

終了時間との関係で、7 人から 13 問寄せられた質問の全てには

答えられませんでした。久々の本格的なアメリカに関する講演として、とても充実した内容でした。

終了後の懇親会には、萩原さんの母校である福島大学経済学部の同窓生2人を含む11人が参加し、

和やかに交流しました。

今回の講演会開催にあたっては、平和委員会、キリスト者平和の会、宗教者平和協議会、安保破棄実行委員会、革新懇、北海道合唱団の友好6団体から共催いただき、無

事に成功させることができました。今後、記念行事の第2弾として、ベトナム枯葉剤被害者の支援企画を考えており、その成功に向けて奮闘する決意です。

(事務局長 片岡 満)

## 東京

### 情勢に応える講演会で力を

東京都 AALA は9月に3回の学習・講演会を行いました。13日には、西東京支部総会の記念講演で「朝鮮半島対話プロセスの動向と日韓関係の危機」(講師:高林敏之さん)でした。市外からの参加もあり、33名とかつてなく多く、会場いっぱいになりました。

深刻な日韓関係をどう考えるか、韓国・北朝鮮国内の情勢は今どうなっているのか、アメリカのトランプ大統領は米朝関係をどうしようとしているのか、北東アジアにおける安倍政権の外交の問題は何なのかなどを知りたいところでした。高林さんは、詳細な事実に沿った資料を基に、縦横にお話をされ、参加者は身を乗り出すようにして聞き入りました。

14日には三鷹・武蔵野支部主催の講演会「東アジアの平和の流れと憲法9条」(講師:吉田万三日本 AALA 代表理事)は17名の参加者が熱心にメモを取るなどして耳を傾けました。机を口の字型に並べ替えたこともあり、親しみやすい雰囲気になり、和やかな講演会になりました。東アジア・南北朝鮮については、政治的・経済的情勢が戦争や対立ではなく、平和体制の方向に動き出していること。安倍政権がこれを認識できず、平和戦略を持たずにアメリカの下請け化し、軍事大国化に向かっていること。戦争責任に向き合わず、9条改悪、軍拡、言論統制推進等の植民地支配と戦争責任については、若い人を含めて主催者の在り方も問われていることが話されました。戦後に生き残っ

た旧官僚体制が現在につながっていること、吉田さんの「最大の安全保障は隣人と仲良く付き合うことがいちばん」が参加者に強い印象を与えたようです。「目からうろこ」「9条を守るより他はない。納得」などの感想が寄せられました。

23日には、東京都 AALA 主催で「『慰安婦』問題と徴用工問題を考える」(講師:大森典子弁護士)を開催、50名が参加しました。非常に論点が整理されていて



わかりやすい話でした。東京都 AALA はこれらの講演会での学習を力に秋からの運動に取り組んできます。

(事務局長 松井幸博)

## 千葉

### どこの空にも オスプレイはいらない



CV22 オスプレイ

千葉県内は台風15号からの復興途中。さらに19号による被害を受け、それは想像をはるかに超えるものとなりそうです(台風通過直前の投稿)。

この台風の影響で、10月12日に予定されていたオスプレイ反対県民集会は中止となりましたが、陸上自衛隊木更津駐屯地へのオスプレイ暫定配備の動きに、県内他市でも反対の声が上がっています。

船橋・習志野・八千代地域は、

航空自衛隊習志野駐屯地を抱え、空挺団による落下傘降下訓練が日常的に行われています。ここ習志野駐屯地と木更津駐屯地との連携訓練は防衛省の説明会(8月3日木更津)でも明言。これに危機感を持った市民が実行委員会をつくり、市民に呼びかけて、11月10日、「オスプレイいらない!習志野、八千代、船橋市民集会」(13:00~船橋・薬円台公園:新京成習志野駅下車徒歩5~6分、習志野駐屯地前の公園)を計画しています。市街地の頭上をオスプレイが飛び回することを想像すると、いてもたってもいられません。多くの市民にその危険性を知らせ、この集会を成功させたいと思います。

また、木更津への暫定配備が行われれば、房総半島南部全域がその訓練空域となります。木更津市だけの問題ではありません。習・八・船地域に続いて、多くの自治体でも反対の動きが生まれることを願っています。

(事務局長 上田敦子)

## 2020年NPTと世界大会 ニューヨーク代表派遣募金のお願い

### 会員・読者のみなさま

日本 AALA は、2020 年 4 月 23 日（木）～4 月 29 日（水）ニューヨークで開催される NPT と世界大会ニューヨークに日本 AALA の代表（10 名）を派遣する予定です。つきましては、代表派遣の募金を訴えるものです。目標額は 50 万円です。1 口 1000 円で何口でもお願いいたします。

2017 年 7 月に核兵器禁止条約が国連総会で 122 カ国の賛成で採択されて以降、現在署名は 79 カ国、批准は 32 カ国になりました。世界の反核・平和運動は着実に進んでいます。

安倍政権は、唯一の戦争被爆国日本の政権でありながら核兵器禁止条約の署名、批准を拒んでいます。日本 AALA は、今年 9 月 1 日の第 54 回定期全国大会で被爆者とともに核兵器廃絶の運動に参加するとともに、日本政府と国会に対し、すみやかな署名と批准を求めることを決定しました。日本原水協と協力して 2020 年 4 月の NPT 再検討会議や集会への参加を確認しました。

10 月から消費税 10% が強行され、なにかと出費がかさなり厳しい状況ではありますが、みなさまのご理解・ご協力をお願いいたします。同封しました郵便局の「払込取扱票」でお送りください。

### 非同盟諸国首脳会議 代表派遣募金 ありがとうございました

日本 AALA は、機関紙 5 月号で今年 10 月 25、26 日にアゼルバイジャンの首都バクーで開催される第 18 回非同盟諸国首脳会議（NAM）に日本 AALA 代表を派遣する募金を訴えました。9 月末で 53 万円になりました。みなさまのご理解・ご協力に心から感謝申し上げます。



西東京支部  
阿部 宏忠

### 街宣と対話の継続を

私は数年前に中島荒太さん（西東京支部長）のお誘いで AALA に入会し、理事会にも参加するようになりました。「日本が隣人と仲良くして平和に暮らすにはどうすればいいのか」が入会に当たった最大の関心事です。

安倍政権になってから七年が過ぎようとしています。改憲と軍拡の暴走政治を嘘とゴマカシで突き進むばかりです。危険なのは、

最近の「嫌韓」を煽るレイシズム、ナショナリズムをこの暴走政治の露払いに使っていることです。まさに、関東大震災での朝鮮人虐殺から中国侵略さらにアジア・太平洋戦争へと突進した日本帝国主義の亡霊が甦った感があります。

しかし、かつて日本帝国主義が「大東亜共栄圏」を叫んで侵略していった東南アジアの ASEAN 諸国や太平洋の島しょ国家では、非核・非同盟をめざし、気候変動から地球を守る積極的な流れがアメリカや中国と言った大国の「力の政策」の横暴を許さない力となって働き始めています。

ASEAN 首脳会談に向けた国際署名を使ってご近所のみなさんに、「嫌韓」報道の危うさ、ASEAN に倣った「東アジア共同体」のことを話すと、「最近のテ

レビ報道はおかしい。韓国と交流している知人も困っている」「日本の方が朝鮮や中国に攻めていったことを忘れてはなりませんね」などと話がすすみ、気軽に署名に協力してくれています。

西東京支部でも、西武池袋線のひばりが丘駅頭での街頭宣伝を行い、朝鮮半島の非核化と新たな平和体制の構築、さらに東アジアの平和共同体を中心テーマに ASEAN 連帯の国際署名を訴えています。AALA も ASEAN もまだまだ知られていませんが、それだけに街頭での訴えが大事だと思います。極右改憲勢力による侵略戦争美化のナショナリズムの跳りようを許さないためにも駅頭や地域での街宣と対話を継続し、増やしていきたいと思えます。

編集・発行

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

JAPAN ASIA AFRICA LATIN AMERICA  
SOLIDARITY COMMITTEE



住所 〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-11-7 第 33 宮庭ビル 4 階

電話：03 (5363) 3470 HomePage <http://www.japan-aala.org/>

FAX：03 (3357) 6255 E-mail：info@japan-aala.org

振替 00110-6-72434 毎月 1 回 1 日発行 1 部 150 円（送料 62 円）